広島大学とエジプト・ガララ大学
教育協力に関する合意書締結

広島大学は4月19日、エジプト・ガララ大学と教育協力に関する合意書を締結した。

広島大学は、２０１９年４月に、当時開学予定であったガララ大学に対する協力を行うことについて、エジプト高等教育科学研究省と合意し、意向書を締結した。また、２０１９年８月に東京で開催された第７回アフリカ開発会議（ＴＩＣＡＤ７）にて、越智光夫学長がエジプトのアブドゥルファッターハ・エルシーシ大統領およびカーリッド・アテフ・アブデル・ガッファー高等教育科学研究大臣と会談し、ガララ大学への協力について改めて確認した。これらを受け、このたび、具体的な協力事項に関する合意書の締結に至った。

東広島キャンパスを会場に、駐日エジプト大使館、エジプト高等教育科学研究省とオンラインで行われた締結式には、広島大学から越智光夫学長、金子慎治理事・副学長、佐藤利行理事・副学長、ガララ大学からアシェラフ・ハイダー・ガファレブ学長、モハメド・エル・シナウィ副学長らが出席し、越智学長とガファレブ学長が合意書に署名した。また、エジプト政府からカーリッド・アテフ・アブデル・ガッファー高等教育科学研究大臣、駐日エジプト大使館のアイマン・アリ・カーメル特命全権大使、駐エジプト日本国大使館の能化正樹特命全権大使らも同席した。

越智学長は「この締結を機に、ともに平和を願うエジプトと日本のきずなが一層深まり、世界で活躍できる人材の育成にタッグを組んで取り組んでいければと願っております」と今後の期待を述べた。

今後、広島大学は、ガララ大学の工学、歯学および日本語教育の各分野において、カリキュラム編成への協力、オンラインや現地での授業提供など、教育への協力を行っていく。

越智広島大学長㊨とアシェラフ・ハイダー・ガファレブ ガララ大学長、カーリッド・アテフ・アブデル・ガッファー高等教育科学研究大臣

＝広島大学＝
新型コロナ研究者プレスセミナー

広島大学は4月28日、同大の新型コロナウイルス研究者による 第1回プレスセミナーを開催した。

同大は、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、２０２０年４月17日に「広島大学COV-PEACE-PROJECT 2020」を震キャンパスに設置した。現在、新型コロナウイルスに対する予防ワクチンや治療薬の開発、感染状況把握の疫学調査、遺伝子解析、ゲノム解析など、医学・医療系の研究室が一丸となって診断や創薬、対策、ウイルス学的研究などに取り組んでいる。

プレスセミナーでは、6人の研究者がそれぞれの専門分野について説明を行い、記者との活発な意見交換を行った。田中理事・副学長は意見交換の中で、「本学では新型コロナウイルスに関する研究を、様々な研究をもって対応している。これからも引き続き支援と援助をお願いしたい」と述べた。

質疑応答の様子。(左から)田中純子理事・副学長、坂口剛正教授、大毛宏喜教授、田原栄俊教授、大段秀樹教授、久保達彦教授

広島大学留学生が
附属高校と呉市倉橋町を訪問

フランスのトゥールーズ・ジャン・ジョレス大学からの交換留学生（広島大学短期交換留学プログラム、ＨＵＳＡ）が、3月11日と3月24日に授業研究で広島大学附属高校と呉市倉橋町を訪問した。

広島大学附属高校では、今後の高大接続のための授業の発展や、留学生による附属高校訪問、広島大学における英語による授業への参加について附属高校の教員とミーティングを持った。呉市倉橋町訪問では、倉橋市民センターにおいて、倉橋市民センター、倉橋観光ボランティアガイドの会、呉市観光振興課、呉市議会、倉橋自治会の関係者より温かい歓迎を受けた。今後の呉市行政と連携した国際授業の発展について話し合う機会を持った。長門の造船歴史館では、外交史や造船の歴史について説明を受け、倉橋の特産物のトマトの産地も訪れて話を聞いた。

山口大学 全学ＦＤ・ＳＤ講演会
教学マネジメントについて考える

山口大学令和2年度全学ＦＤ・ＳＤ講演会『教学マネジメントについて考える～「大学全体」「学位プログラム」「授業科目」レベルに着目して～』が3月3日、学内外から164名の参加者を集め、Ｚｏｏｍによるオンライン聴講及び吉田キャンパス・共通教育棟2階会議室による会場聴講を併用したハイブリット型セミナーにて開催された。講演会は、

山口大中高温微生物研究センター
病原微生物部門セミナー

山口大学は3月18日、２０２０年度の病原微生物部門セミナーを開催した。同セミナーは、吉田キャンパスの獣医学国際教育研究センターを会場として、オンラインも併せたハイブリッド方式で実施した。対面とオンラインを併せて35名が参加した。

同セミナーでは、招待講演として愛媛大学プロテオサイエンスセンターの坪井敬史氏が